

## は し が き

本報告書は、メディア教育開発センターの研究プロジェクト「教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発」の、平成9年度における研究成果をまとめたものである。このプロジェクトは、同年に4年計画として発足したので、これはその初年次の報告である。

高等教育機関の教員がより効果的な教育活動を行うためには、メディアを活用することがひとつの有力な手だてと考えられる。そこで、本プロジェクトの目的は、教員の教育活動におけるメディア活用の資質を高めるため、関連研究分野のこれまでの成果を踏まえ、また、メディア・リテラシーや教授技能に関する実証的知見に基づいた、一連の能力開発プログラムを研究開発することである。このため、平成9年度には、ファカルティー・ディベロップメント研究と教育メディア・教授デザイン研究のこれまでの主要成果を把握すること、海外の高等教育におけるメディア活用の主要な動向を明らかにすること、国内大学でのメディア活用の事例研究をとおして研修プログラムに反映させる要素を見出すことに重点を置いて研究を進めた。研究会を4回開催するとともに試行的な研修活動として『教育メディアセミナー』を実施し、また、研究成果をインターネット上にデータベースとして作成する作業を進めてきた。

本報告書は、以上の活動の成果を4部に分けて収めている。第1部はファカルティー・ディベロップメントに着目し、アメリカにおけるその推移を把握するとともに、我が国での現状と課題を二つの対談をとおして浮き彫りにした。第2部は海外の高等教育におけるメディア活用の調査報告を集め、コンピュータ（特にインターネット）と通信技術の利用を強調しているが、そのなかでの女性や障害学生の 이슈にも言及している。第3部では、国内の高等教育機関におけるメディア活用の事例研究を報告するとともに、コンピュータの利用を念頭に置いたスクリーン・デザインに関する論考も加えた。教授領域やメディア種別の観点から、研修プログラムの開発へと発展されるべき要素を多く含んだ論考群である。第4部においては、これまでの教育メディア研究の主要成果をレビューするとともに、それと関連した教授法のデザインに関する議論を行い、実証的研究の結果を報告している。

なお、本プロジェクトが試行的研修として主催した『教育メディアセミナー』の計画と実施、及び、その評価については、本報告書の姉妹編として別冊（研究報告第6号）にまとめた。ここでは、同セミナーのために作成し配布した資料も『付録』として収めている。

プロジェクトの目的達成に向けて、この報告書はいわばその基礎づくりの報告である。問題関心を共有するさらに多くの方々と共同して、着実に研究開発を発展させていきたいと願っている。なお、本報告書の編集は、主として広瀬洋子助教授が担当した。また、日常的なプロジェクトの運営は、事務補佐員の西脇節子さんと吉田孝代さんの協力と研究協力課専門職員（共同研究等担当）の支援を頼っている。厚く感謝申し上げるしだいである。

平成10年7月

プロジェクト主査 佐賀啓男